

学校法人帯広大谷学園未来メッセージ 最優秀作品（区分D：高1⇒大1）

| | |
|--------------|---------------------|
| タイトル | 幸せな未来でありますように |
| 作品形式 | 手紙 |
| 在学学校（応募時／現在） | 帯広市内私立高等学校1年／道外大学1年 |
| 氏名 | N・Y |

19歳の私へ、16歳の私から手紙を贈ります。

19歳の私、お元気ですか。きっと大学1年生か、海外に留学するという夢を叶えている最中だと思います。私は今、10年前のことを考えながら、手紙を書いています。10年前の今頃、私達の住む日本で「東日本大震災」という悲しい出来事がありました。当時6歳だった私は保育所でもう少しで小学校に入学できることを楽しみにしながら通所していたと思います。北海道に住んでいた私は、普通に入学できたけれど、きっとあたりまえの生活も入学式もできていない人が沢山いたと思います。なぜ私が、10年前の「東日本大震災」について考えながら手紙を書いているかということ、10年前の様子がコロナ禍の今の様子と似ているところがあると思ったからです。「あたりまえの日常」「普通の生活」が一瞬で変わってしまいました。楽しみにしていた学校祭も、スキー学習もなくなり、マスクの生活を強いられ、自由に昼ごはんを食べることも禁止されました。あたりまえの日常を送ることができない苦しさが増した1年だったと思います。でも、私はコロナ禍だからこそできることを考え、自分で選択し行動してきました。19歳の私にも同じように壁にぶつかってもあきらめてそこで夢を終わらせたりしないで、壁を壊す方法、避ける方法、別の道を自分の力で選択してほしいです。そして、あたりまえの日常を送れることに感謝して、人もものも大切にしてほしいです。きっと、19歳の私も悩むことや苦しいことがあると思います。でも、この高校で大切な大好きな仲間や生徒会メンバー、先生と過ごした時間は私にとってかけがえのない宝物になるような3年間をこの高校で過ごしたいと思います。こんなときだからこそ、16歳の私は19歳の私と世界中の全ての人の未来が幸せでるように願っています。